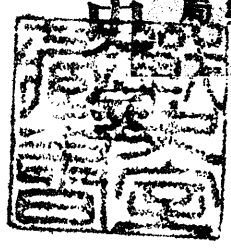


復調製史料

作戰記錄資料出所表

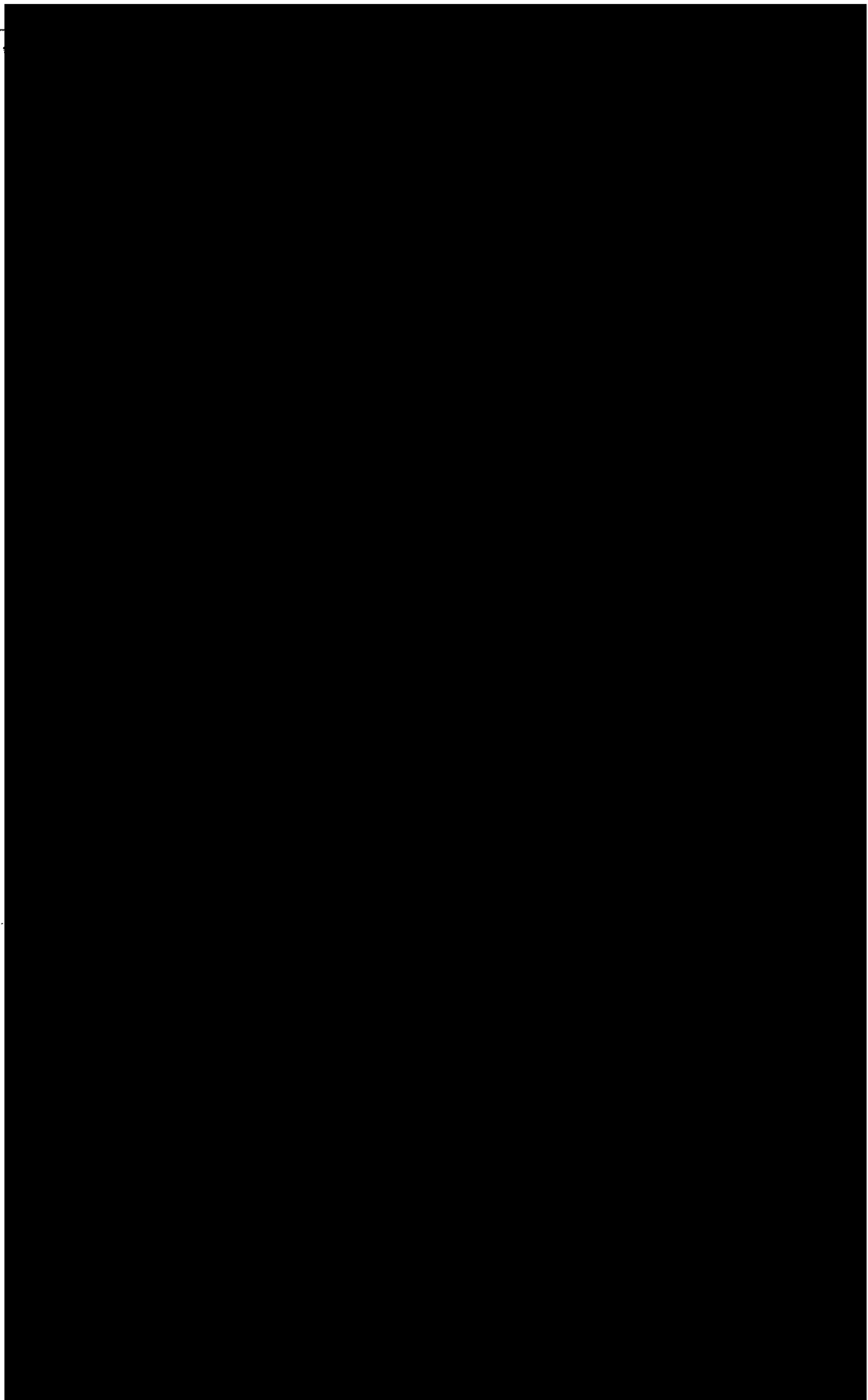
防衛研修所戰史

昭和二十二年四月調製
昭和二十四年十月復調製
局



2300^A-2
5~1

1603



1604

作
戦
記
録
資
料
出
所
表

昭和二十二年四月講製
昭和二十四年十月複製
復員局

1605

昭和二十年十月十二日附「戦争記録調査の指示」即ち日本國政府宛命第一二六號により日本國陸軍省竝に同參謀本部の所有する軍部の歴史^註的諸記録及正式諸記録は本措置によつて調査せられることとなつた。日本國軍省と參謀本部は解体し且從來の諸機能は復員局へ移管となつた。一般的調査業務は復員局によつて繼續せられ一環した作戦記録が作られた。これらの作戦記録を作製準備すべき細部の指示は「日本戦史」に關する昭和二十年十二月十五日附及同二十一年一月二十一日附の覺書中にある。

本作戦記録にある基礎資料は元將校によつて作製せられたものである。此等元將校は作戦間大兵團内の指揮に當り或は參謀系統に屬したものである。こゝで注意を喚起するの要ある點は空爆と火災による甚大な破壊のため東京記録は失はれ資料の大半は記憶により再編修せられたことである。

この種記録の作成に當り前に必要なる當時の命令、計畫、部隊日誌等

（原本）の大部は作戦間乃至空襲中に滅失した爲にその數少なく資料編纂の仕事を極めて困難ならしめた。殊にその甚だしかつたのは軍務局及作戦部にあるべき兵力に關する正式記録を全く缺如してゐた點であつた。然し重要な命令、計畫、概算等の多くは記憶により再生され従つて原本と一字一句同一とは云へないがそれは概して正確且信據性のあるものであると思はれる。更に調査の繼續と從來利用し得なかつた原文記録の偶然的發見によつて諸資料は復員局によつて作られる今後「補遺」に記録せられる豫定である。

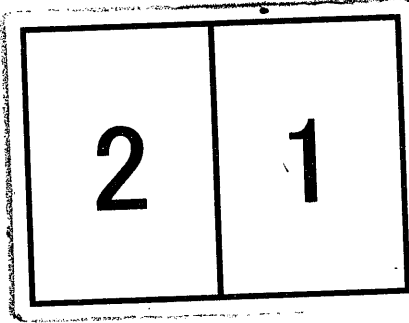
「註」本覺書に基づく措置竝に次で採られた詳細なる諸指示は連合軍司令部第二部長によつて出された。

同第二部長は一九四五年十月二日の連合軍一般命令第九號によつてその計畫を遂行する責任を持つてゐたものである。

日本陸軍の資料を利用するに當り米國の利益を保護せんが爲、一般命令第九號の第四項に於て日本政府の保管しある敵國書類

及作製記載せる書類の再調査を規定した。一九四六年夏日本政府が提出した第一回の作戦記録を仔細に検討せる結果日本側に戦史記載の程度に關し誤解のあつたことを認めた。仍つて一九四六年十一月二十一日第二部長は指示を與へた。これによつて日本政府は更に廣範圍に亘り日本軍の作戦を記録することゝなつた。斯くて第二部は連合軍翻譯及通譯部に小規模の歴史調査課を設けつゝ全計畫の協調を取り得るに至つた。

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	本工作戦記録(第1総集) 資料出所
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

頁	本文記述内容	資料出所
一	第一章 總軍統帥一般の経過 第一節 總軍の統帥發動	元第一總軍參謀中佐新井健(以下Aと略稱す)の記憶
二	第二節 四月頃における情勢	Aの記憶
三	第三節 總軍の性格	Aの記憶
四	註(一)	Aの備忘録
六	註(二)	Aの備忘録
七	第四節 作戰準備の概況 (一) 作戰準備の開始	Aの記憶
八	(二) 四月中旬より六月末頃迄の状況	Aの記憶及備忘録
一二	(三) 六月末頃より終戦迄の状況	Aの記憶
一四	(四) 終戦以後の状況	Aの記憶及備忘録
一六	第二章 作戰用兵	Aの記憶
一七	第一節 一般の状況	Aの記憶
一九	第二節 總軍の作戰用兵 (一) 大本營の決戦作戰要綱 (二) 總軍作戰要綱	Aの備忘録 Aの備忘録及記憶
二二	(三) 第一總軍決戦綱領及第一總軍決戦作戰計畫	Aの備忘録及記憶
二五	(四) 兵團運用 乃至	Aの記憶
二八	(七) 日本海方面の作戰準備	Aの記憶
二八	第三節 各方面軍の状況	Aの記憶
三二	第四節 隣接軍との協同	Aの記憶及備忘録
三三	第五節 航空總軍との協同	Aの備忘録及記憶
三五	第六節 海軍との協同	Aの備忘録及記憶
三七	第七節 防空	Aの記憶及備忘録
四〇	第三章 情報 第一節 戰略情報 第二節 戰術情報	Aの記憶
四一	第四章 交通通信 第一節 交通の状況	Aの記憶
四二	第二節 通信一般の状況	Aの記憶
四二	第三節 通信部隊	Aの記憶及備忘録
四三	第四節 作戰通信の準備	Aの記憶及備忘録
四四	第五章 兵站 第一節 一般の状況	Aの記憶
四四	第二節 兵站部隊	Aの記憶
四五	第三節 軍需品	Aの備忘録及記憶
四六	第四節 國內作戰上の問題	Aの記憶
四七	附録第一 作戰準備の基礎として留意すべき要綱(摘要)	
五二	附録第二 第一總軍決戦綱領	
六二	附録第三 帝都防衛作戰要綱	

1609

1610

二一	(三)第一總軍決戦綱領及第一總軍決戦作戦計畫	Aの備忘録及記憶
二五	(四)兵團運用 乃至	Aの記憶
二八	(七)日本海方面の作戦準備	Aの記憶
二八	第三節 各方面軍の状況	Aの記憶
三二	第四節 隣接軍との協同	Aの記憶及備忘録
三三	第五節 航空總軍との協同	Aの備忘録及記憶
三五	第六節 海軍との協同	Aの備忘録及記憶
三七	第七節 防 空	Aの記憶及備忘録
四〇	第三章 情 報 第一節 戦略情報 第二節 戰術情報	Aの記憶
四一	第四章 交通通信 第一節 交通の状況	Aの記憶
四二	第二節 通信一般の状況	Aの記憶
四二	第三節 通信部隊	Aの記憶及備忘録
四三	第四節 作戦通信の準備	Aの記憶及備忘録
四四	第五章 兵 站 第一節 一般の状況 第二節 兵站部隊	Aの記憶
四五	第三節 軍需品	Aの備忘録及記憶
四六	第四節 國內作戦上の問題	Aの記憶
四七	附録第一 作戦準備の基礎として留意すべき要綱 (摘要)	
五二	附録第二 第一總軍決戦綱領	
六二	附録第三 帝都防衛作戦要綱	
六五	附録第四 津經要塞地帯本土作戦に關する第一總軍 第五方面軍現地協定	
六七	附録第五 第一總軍 本土作戦に關する第二總軍間現地協定 航空總軍	Aの備忘録
七三	附録第六 本土作戦に關する 第一總軍、聯合艦隊間現地協定	
七九	附録第七 本土作戦に關する第一總軍、聯合艦隊間 現地協定に基く海軍基地防衛要領	Aの備忘録及記憶
附圖第一	主要兵團配備要圖	Aの備忘録及記憶
附圖第二	第十二方面軍作戦計畫概見圖	Aの記憶圖
附圖第三	第十二方面軍兵團配置概要圖	Aの記憶圖

頁	項	目	挿入事項
一一三	第一章 總軍司令部編成の経緯と當時の情勢	第一節乃至第四節	
三一	第二章 五月初頭頃總軍諸計畫策定の経緯並に當時に於ける隷下軍の状況	第一節乃至第三節	
一一一四	第三章 第二、第三次兵備運用の経緯と之に伴ふ兵團配置の概要	第一節乃至第四節	元第二總軍參謀 陸軍中佐 橋本正勝の記憶に據る
一五一六	第四章 統帥組織改變の経緯		
一七	第五章 第一總軍との作戦地域附近の作戦に關する研究の経緯		
一八一二	第六章 沖繩作戦終末前後に於ける情勢判断と之に伴ふ作戦計畫修正の経緯	第一節乃至第二節	
二二	第七章 航空	第一節乃至第二節	
二二二四	第八章 地上防空	第一節乃至第三節	元第二總軍參謀 陸軍中佐 村田武の記憶に據る
二五	第九章 情報		元第二總軍參謀 陸軍中佐 橋本正勝の記憶に據る
二六	第十章 交通、通信		
二七一三二	第十一章 兵站準備要綱策定修正の経緯及兵站準備進捗の状況	第一節乃至第九節	元第二總軍參謀 陸軍少佐 平野斗作の記憶に據る
三三一三四	第十二章 原子爆彈被爆及終戦の経緯	第一節乃至第二節	元第二總軍參謀 陸軍中佐 橋本正勝の記憶に據る
附表第一	第二總軍統帥發動時に於ける兵團配置概要		
附表第二	第二次兵備後に於ける兵團配置概要		元第二總軍參謀 陸軍中佐 橋本正勝の所持せる記録に據る
附表第三	第三次兵備後終戦時に於ける兵團配置概要		
附圖	終戦時第二總軍管内兵團配置要圖		
別冊	第十六方面軍決戦作戦計畫の骨子		元第十六方面軍參謀 陸軍少佐 羽場安信の記憶に據る
備考	本記録全般に亘り元第二總軍參謀井本熊男の記憶に據り所々加筆修正を施せり		

日本本土よりする硫黄島及爾西諸島に
對する航空作戦記録（第六航空軍）

資料出所

頁	本文記述内容	資料出所
一	第二章 第六航空軍の編成	元第六航空軍參謀中佐水町勝城 （以下Aと稱す）の日記及備忘録
五	第三章 （硫黄島作戦） 第一節 作戦に至る迄の状況	Aの記憶及日記
七	第二節 作戦直前の状況	Aの記憶
八	第三節 作戦實施	Aの日記及記憶
一一	第四章 （天號作戦準備） 第一節 中央の施策	Aの備忘録
一六	第二節 軍の作戦準備	Aの記憶
一六	第二 軍の天號航空作戦計畫	Aの記憶
二〇	第三 航空基盤の準備	Aの記憶
二二	第四 特攻隊の準備	Aの記憶
二二	第五 燃料、彈藥の準備	Aの記憶
二三	第六 三月に於ける準備状況	Aの記憶
二七	第五章 （天號航空作戦實施） 第一節 米軍作戦企圖の判斷	Aの記憶及米陸軍調査部質問書其 の十三回答書
三〇	第二節 作戦に移行せる状況	Aの日記
三一	一、敵機動部隊の九州來襲	Aの記憶
三一	二、作戦準備の急遽補備	Aの記憶
三三	三、軍の聯合艦隊司令長官指揮下への轉移	Aの記憶及備忘録
三四	四、情況切迫と軍の處置	Aの備忘録及記憶
三七	第三節 作戦實施 第一 第一撃	Aの備忘録及日記
四〇	第二 第一撃後三月三十一日迄の状況	Aの備忘録及日記
四三	第三 三月三十一日より第一次總攻撃迄の状況	Aの備忘録及日記
四八	第四 第一次總攻撃	Aの備忘録及記憶
五一	第五 第二次總攻撃	Aの備忘録
五五	第六 第三次總攻撃	Aの備忘録
五九	第七 第四次總攻撃	Aの備忘録
六二	第八 第五次總攻撃	Aの備忘録
六四	第九 第六次總攻撃	Aの日記及記憶
六七	第十 第七次總攻撃	Aの記憶
六八	第十一 義號作戦及第八次總攻撃	Aの記憶及日記
七七	第十二 第八次總攻撃以後の状況	Aの記憶

備考 全版を通じ元第六航空軍參謀高山少佐の記憶を參照しあり

中部太平洋方面に對する航空作戰記錄資料出所

頁	本文記述内容	資料出所
一	第一章 (教導航空軍司令部の編成) 第一節 教導航空軍司令部編成の経緯	元教導航空軍參謀、中佐水町勝城 (以下Aと稱す)の記憶
二	第二節 教導航空軍司令部の内容	Aの記憶
二	第三節 教導航空軍の性格及任務	Aの備忘録
四	第二章 (捷二號作戰準備) 第一節 捷號作戰準備	Aの備忘録
五	第二節 捷二號作戰計畫	Aの記憶
六	第三節 海軍との關係	Aの記憶
九	第三章 (捷三號作戰準備) 第一節 捷三號作戰計畫	Aの記憶
一三	第四章 (「マリアナ」方面航空作戰) 第一節 作戰前の狀況	Aの備忘録及日記
一四	第二節 作戰準備	Aの備忘録及記憶
一六	第三節 作戰實施 一、第一次攻撃	Aの記憶及日記
一七	二、第二次攻撃	Aの日記及記憶
一九	三、第三次攻撃	Aの日記及記憶
二一	四、第四次攻撃	Aの日記及記憶並に元飛行第一百 戰隊長の記憶
二三	第五章 教導航空軍司令部の廢止	Aの記憶

P21 P28	P14 P20	P 1 P 13	頁
<p>第二章 防空作戦</p> <p>自 第一</p> <p>至 第三</p> <p>(P21)</p> <p>(P28)</p>	<p>第一章 作戦指導</p> <p>自 第四</p> <p>至 第十一</p> <p>(P13 の末行)</p> <p>(P20 の末行)</p>	<p>第一章 作戦指導</p> <p>主要内容</p> <p>皇土防衛作戦要綱の要旨</p> <p>捷三號作戦準備要綱要旨</p>	<p>項 目</p>
<p>西岡中佐の記憶</p>	<p>島谷中佐の記憶</p>	<p>加藤大佐並に 西岡中佐の記憶</p>	<p>資料出所</p>

本土作戦記録（防衛總軍）資料出所一覽表

P55 I P57	P54 I P55	P47 I P52	P41	P28 I P44
第五章 警備	第四章 海軍及隣接 各軍との關係	第三章 沿岸防禦 全章（表を含む）	第二章 防空作戰 第九の(4) 別表第二 (P41)	第二章 防空作戰 自第四 至第十 別表第一 (P44 P28)
加藤大佐の記憶	西岡中佐並に 島谷中佐の記憶	緒方中佐の記憶	一宮少佐の記憶	島谷中佐の記憶

1615

本土作戦記録（第五方面軍）資料出所一覽表

頁	資料	出所
二頁五行	北部軍司令部歴史案	
四頁五行	北部軍司令部歴史案竝に田熊中佐の日誌及記憶	
五頁末行	田熊中佐日誌及記憶	
六頁六行	第五方面軍航空主任參謀元陸軍大佐渡邊行雄より聴取	
八頁六行	方面軍司令部歴史竝に田熊中佐の日誌及記憶	
一一頁三行	田熊中佐の日誌及記憶	
一五頁十一行	田熊中佐の日誌及記憶を主とし一部舊動員關係者等より聴取	
一九頁二行	田熊中佐の記憶	
二四頁三行	第五方面軍航空主任參謀渡邊舊大佐より聴取せるものを主として一部田熊中佐の記憶とす	

1616

二六頁末行	主として田熊中佐の記憶
三〇頁二行	軍管區司令部歴史竝に田熊中佐の日誌及記憶
三八頁末行	田熊中佐の日誌及記憶
五七頁末行	田熊中佐の日誌及記憶但し航空關係事項は第五方面軍航空主任參謀渡邊大佐、警戒機關係事項は元第五方面軍航空情報隊長石田少佐より聴取
六一頁九行	田熊中佐の日誌及記憶但し軍司令官訓示は北海道新聞より轉載
六四頁五行	田熊中佐の記載及北部軍管區司令部保管の「終戦後の發來翰・發來電綴」
最後迄	田熊中佐記憶但し復員順序は北部復員連絡局保管の「復員前後に於ける隸（指揮）下部隊配置要圖」による

第十七方面軍作戦準備史出所

本記録は第十七方面軍参謀たりし元陸軍中佐石橋松茂、元陸軍少佐笹田房吉の兩名協力し主として記憶を基礎とし且同方面軍關係参謀の記憶を参考とし作製せるものなり其の大部は石橋中佐の記憶を主とし特に参考とせるもの左の如し

頁數	區分	出所
1 1 2	第一章第一節	師團の轉用に關しては元方面軍参謀たりし吉田俊隈少佐の記憶を参考とす
11 1 15	同 第三節	方面軍作戦計畫の大綱は笹田少佐の記憶を参考とす
17 1 21	第三章第二節	兵備に關しては吉田少佐の記憶を参考とす
22 1 23	同 第三節	濟州島の作戦指導の経緯に關しては笹田少佐の記憶に依る船舶輸送に關しては元方面軍参謀たりし家村英之助少佐の記憶を参考とす

39 1 41	36 1 39	33 1 35	30 1 33	28 1 30
同 第七節	同 第六節	同 第四節	同 第三節	第四章第二節
笛田少佐の記憶に依る	神崎大佐竝に笛田少佐の記憶に依る	考とす 元方面軍参謀たりし神崎長大佐竝に笛田少佐の記憶に依る 船舶輸送に關しては第十七方面軍参謀家村英之助少佐の記憶を参	笛田少佐の記憶に依る	兵備に關しては元方面軍参謀たりし國廣忠勝中佐の記憶に依る

細甸作戰記録（第一期）資料出所表

本記録出所は作戰記録表紙裏面註に明記しある元陸軍少將寺倉小四郎の作成せし所なるも之を更に細叙すれば左の如く且個人所持資料（A）手記（B）記憶（C）等混交しありて一項目に於ても之を判然と區分し難きものあるも其の主なる出所を表記することとす

項	目	資	料	出	所
第一章		C			
第二章	第一節	B	及	A	を主とす
"	第二節	A	及	B	を主とす
"	第三、第四節	A			を主とす
"	第五節	B	及	O	を主とす
第三章	第一節第一款	B			を主とす
"	" 第二款	B	、	A	を主とす
"	第二節第一、第二款	B	、	O	を主とす

第三章	第二節	第三款	Aを主とす
"	第三節	第一―第五款	B、Cを主とす
"	"	第六款	Aを主とす
"	"	第七款	Cを主とす
"	第四節		Aを主とす
第四章	第一節	第一款、第二款	Bを主とす
"	"	第三款	A、Cを主とす
"	"	第四款	B、Cを主とす
"	第二節		A及Cを主とす
"	第三節	第一―第四款	B、Cを主とす
"	"	第五―第七款	A、Cを主とす
"	第四節	第一款	Aを主とす
"	"	第二款	Bを主とす
"	"	第三款	A、Cを主とす

附 圖	第四章	第四節	第四一第六款	A、Cを主とす
	"	第五節	第一款	Bを主とす
	"	"	第二款	A、Cを主とす
	"	第六節	第一款	A、Cを主とす
	"	"	第二款	A、Cを主とす
	"	"	第三款	Bを主とす
	"	"	其の一	A、Cを主とす
	"	"	其の二	A、Cを主とす
	"	"	其の三	A、Cを主とす
	"	"	其の四	A、Cを主とす
	"	"	第四款	Aを主とす
	"	第七節		Aに據る
	第五章	第二節	一第三節	Bを主としA、Cを以て補ふ
	"	第四節		Aを主とす

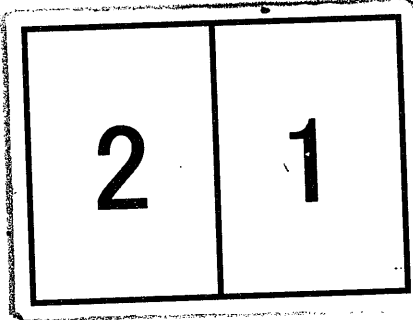
緬甸作戰記錄（第二期）資料出所一覽表

頁	項 目	資 料 出 所
一	第一章 第一節 緬甸戡定作戰終了時に於ける英印軍政に重慶軍の對緬反攻判斷	英印軍及重慶軍の對緬甸反攻判斷は當時第十五軍司令部に於て數次に亘り深刻に検討せられたる問題なりしを以て本節は作戰主任參謀として關與せる不破大佐の正確なる記憶に基き記述せるものなり
四	第二節 緬甸戡定作戰終了時に於ける第十五軍の任務と防衛態勢の確立強化	本節は不破大佐着任直前の事實なりしも作戰主任として着任後直ちに當時の第十五軍命令錄其の他の記錄に依り研究して承知せる事項を記憶に基き記述せるものなり
八	第三節 アキヤブ方面に對する英印軍反攻企圖と我が對策	本節も第二節と同様なり
一〇	第四節 第一次アキヤブ作戰	第一次アキヤブ作戰は不破大佐着任直後開始せられ且其の大部は作戰主任として直接關與せる深刻なる事實なるを以て數字的又は時間的細部は忘却せる所あるも本節中に記述せる内容は正確なる記憶に基くものなり
一五	第五節 緬甸方面軍編成の意義及其の任務と敵反攻擊推進の促進	一、緬甸方面軍の編成は南方軍作戰記錄等を参照す 二、緬甸方面軍編成の意義は當時主任參謀として自ら研究せる内容を以て正確なる記憶に據るものなり 三、緬甸方面軍の任務は方面軍創設當時南方軍總司令官より明示せられたるも明瞭に記憶せず只「緬甸の安定確保」と「對印作戰準備」の二項目のみは根本任務として明らかに示達せられありたるを以て本件のみを記憶に基き記述せり 四、敵反攻 ^擊 推進の促進中緬甸に對する兵力増々の具體的記述は南方軍作戰記錄及元大本營參謀の記憶等に基くものなり

二	<p>第二章 第一節 チンドウイン河方面に對する我が防衛配備と印度第七十七旅團の我が間隙突破作戦の経緯</p>	<p>大部分の記述は不破大佐の記憶に據るものなるも印度第七十七旅團の中部緬甸挺進行動に關しては當時の第十五軍情報主任參謀たりし河内中佐の援助に基き整理記述せるものなり</p>
二三	<p>第二節 我が防衛態勢の再検討と對印積極作戦強行論の抬頭</p>	<p>當時緬甸の防衛態勢を如何に強化すべきやに關し主任參謀として特に眞剣に考究し且關係部隊と絶えず連絡して方面軍としての對策樹立に勉めたる關係上當時の経緯を正確なる記憶に基き記述せるものなり</p>
二八	<p>第三節 イムパール作戦決行の経緯と政略兩略上に於けるイムパール作戦の價値</p>	<p>「二二一號」作戦に關する事項は不破大佐着任以前の事實なりしも着任後「二二一號作戦計畫」なる記録に基き研究せし内容中記憶しありし所を記述せり 二右以外の記述は單なる記憶に基けり</p>
三三	<p>第四節 第二十八軍及第三十三軍の創設と其の意義</p>	<p>本節中第二十八軍及第三十三軍の創設及兵力増強の具体的事項は南方軍作戦記録に基き記述し右以外の説明的事項は一般の記憶に據り記述せり</p>
三七	<p>第三章 第一節 イムパール作戦を主軸とする緬甸方面軍全般作戦指導</p>	<p>本節は作戦主任參謀として當時關與せる諸研究に基き記憶せる事項を整理記述せり</p>
四三	<p>第二節 イムパール作戦準備</p>	<p>前項と同様なり</p>
五一	<p>第三節 イムパール作戦経過の概要</p>	<p>イムパール作戦は作戦主任參謀としての特に深刻なる體驗に基き記憶を基礎として其の経過の概要を記述せるものなるも其の作戦過程中各種作戦轉機の具体的事實を日次の経過に従つて明らかにし得ざりしは當時の記録皆無なりしに因るものなり</p>
六五	<p>第四節 フーコン作戦</p>	<p>前節同様</p>

七三	<p>第五節 雲南作戰</p>	<p>一、雲南方面進攻作戰計畫の経緯中「大理攻略作戰計畫」は作戰主任として其の根子を立案せし關係上正確なる記憶に基き記述せり 第五十六師團の「保山攻略計畫」當時第五十六師團參謀の立案せし計畫を方面軍に於て検討せしことありしを以て其の時記憶しありし計畫案の骨子を記述せり 二、重慶軍の反攻と我が反擊作戰に關する経過の記述は不破大佐の記憶に基き記述を更に當時の第三十三軍參謀長たりし片倉少將が補備修正せるものなり</p>
八〇	<p>第六節 第二次アキヤブ作戰</p>	<p>本節の記述は不破大佐の記憶に基き外第五十四師團の行動に關聯せる事項は當時の第五十四師團參謀長小林大佐の援助に依り整理せるものなり</p>
八六	<p>第七節 中、北緬對空挺作戰</p>	<p>作戰主任として關知せる範圍の記憶を記述せり</p>
八九	<p>第四章 イムパール作戰の失敗と全緬甸防衛計畫の變更</p>	<p>前節同様なり</p>

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	緬甸作戦記録(第3期) 挿入事項一覧表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

緬甸作戰記錄（第三期）挿入事項一覽表

頁	項 目	挿 入 事 項
1	第一章 第一節 ビルマ防衛上に於ける本會戰の意義	南方總軍參謀山田大佐より聽取及起案者の觀察
2	第二節 會戰準備	起案者の觀察
3	其の一 會戰計畫の概要	元ビルマ方面軍參謀長故四手井中將より聽取
5	一、 二、 三、 第十五軍方面	起案者の起憶 第十五軍參謀長吉田少將より聽取及起案者の記憶
8	三、 第三十三軍方面	起案者の記憶
8	四、 第二十八軍方面	同 右
9	其の二 會戰準備	第十五軍參謀長吉田少將より聽取及起案者の記憶
10	挿圖第一 第三節 會戰經過の概要 其の一 主作戰正面への戦力の増強 一、 マンダレイ北方地區攻勢の頓挫と兵力の増強 二、 第十五軍、第二十八軍協力關係 三、 三軍協力の爲の作戰協定	起案者の記憶 起案者の記憶 起案者の記憶 起案者の記憶
15	其の二 一號攻勢の頓挫と戦勢一轉してメイクテトラ會戰に移行せる経緯	記案者の記憶
18	其の三 イラワヂ河河岸戦線の破綻	同 右
22	其の四 メイクテトラ會戰と一般戦況の推移	起案者の記憶但し方面軍の企圖に就ては起案者の觀察
24	其の五 本期間第五十六師團及第二十八軍方面の狀況	起案者の記憶
25	挿圖第二	同 右
28	第二章 第一節 方面軍の決戰目的の放棄と戦線整理	方面軍參謀岡本中佐より聽取及起案者の觀察
30	第二節 第三十三軍戦線の崩壊とラングーンの喪失	南方總軍の企圖及之に基く方面軍の部署に就ては南方總軍參謀山田大佐より聽取其の他は起案者の記憶
33	第三章 第一節 總軍の企圖に基く方面軍の部署	同 右
34	第二節 各方面作戰經過の概要	起案者の記憶
39	第三節 編成の改變と一部兵力の他方面への抽出	南方總軍參謀山田大佐より聽取及起案者の記憶 但し其の後本記録中の33pは終戦前シヤムに轉進せること判明せるに付訂正す
40	第四節 第二十八軍の脱出作戰	方面軍參謀岡本中佐より聽取
40	第五節 終戦時の狀況	南方軍參謀山田大佐同美濃部少佐に聽取

1626
1627

10	其の一 主作戰正面への戦力の増強 マンダレイ北方地區攻勢の頓挫と兵力の増強	起案者の記憶
14	ニ 第十五軍、第二十八軍協同關係	起案者の記憶
15	三 三軍協力の爲の作戰協定	起案者の記憶但し16頁(註)は第三十三軍參謀辻大佐より聴取
18	其の二 一號攻勢の頓挫と戦勢一轉してメイクテトラ會戦に移行せる経緯	記案者の記憶
22	其の三 イラワチ河河岸戦線の破綻	同 右
24	其の四 メイクテトラ會戦と一般戦況の推移	起案者の記憶但し方面軍の企圖に就ては起案者の觀察
25	其の五 本期間第五十六師團及第二十八軍方面の状況	起案者の記憶
28	挿圖第二 第二章 第一節 方面軍の決戦目的の放棄と戦線整理	同 右 方面軍參謀岡本中佐より聴取及起案者の觀察
30	第二節 第三十三軍戦線の崩壊とラングーンの喪失	南方總軍の企圖及之に基く方面軍の部署に就ては南方總軍參謀山田大佐より聴取其の他は起案者の記憶
33	第三章 第一節 總軍の企圖に基く方面軍の部署	同 右
34	第二節 各方面作戰經過の概要	起案者の記憶
39	第三節 編成の改變と一部兵力の他方面への抽出	南方總軍參謀山田大佐より聴取及起案者の記憶但し其の後本記録中の33pは終戦前シヤムに轉進せること判明せるに付訂正す
40	第四節 第二十八軍の脱出作戰	方面軍參謀岡本中佐より聴取
40	第五節 終戦時の状況	南方軍參謀山田大佐同美濃部少佐に聴取
	挿圖第三 作戰經過概見圖	起案者の記憶 同 右

備考

一、起案者は第十五軍參謀（作戰）にして自ら關與せる事項竝に他軍との連絡事項に就き記憶を整理せるものなり（資料は歸還途中事故に會し一切焼失せる爲）

二、方面軍の企圖に就ては面接の機會ありたる關係參謀につき聴き又は自ら觀察せる所を記述せるものなり

但し歸還者少かりし爲所望の資料を入手し得ざりし點あり

馬來作戰記錄（第二十五軍）編纂の基礎資料

頁	内 容	基 礎 資 料
一一	第一章 作戰準備	
一一	第一節 一般の状況	起案者の記憶
一二	第二節 戦闘序列の下令	同 右
一四	第三節 南方軍命令の傳達	同右及關係者の摘録
一四	第四節 軍司令部の編成及部隊の掌握	起案者の記憶
一五	第五節 作戰計畫の策定、海軍との協定	起案者の記憶並に關係主務者の摘録
三〇	第二章 上陸作戰	
三〇	第一節 南方軍命令の發令	關係主務者の記憶並に摘録
三二	第二節 第二十五軍命令の傳達	同 右
三四	第三節 三亞に於ける部隊の集合及行軍	同 右
三六	第四節 出發及航行	同 右
三八	第五節 情報關係事項	主務者の記憶及一部殘存資料
四二	第六節 泊地進入及上陸	同右及關係者の摘録
四六	第三章 國境の突破よりケター平地の作戰	
四六	第一節 國境突破	關係者の記憶
四六	第二節 ジンゴラ附近の戦闘とアロースター占領	參加者の記憶及摘録
五六	第三節 ケター平地に於ける第五師團主力の行動	起案者の記憶
五七	第四節 彼南の占領	同 右
五七	第五節 第五師團主力のペラソ河の線進出	同 右
五八	第六節 安藤支隊の行動	起案者の記憶
五九	第七節 近衛師團の轉進	同右及一部摘録
六一	第八節 コタバル方面の状況	起案者參加者の記憶及摘録
七一	第九節 第二次輸送船團	起案者の記憶
七一	第十節 鐵道部隊	同 右
七一	第十一節 軍司令部の行動	同 右
七二	第十二節 航空部隊の協同	同 右
七二	第十三節 作戰計畫の修正	起案者の摘録
七七	第四章 ペラソ河渡河よりクランブル占領迄	

七七	第一節 概 情	關係主務者の記憶及摘録
七八	第二節 南方軍命令	同 右
七九	第三節 軍命令の下達	起案者の記憶並に摘録
八一	第四節 第五師團のベラク河の渡河	同右及一部殘存資料
八四	第五節 カンバル附近の戦闘	起案者の摘録
八七	第六節 海上機動部隊の行動	起案者の記憶、摘録及一部資料
八九	第七節 近衛師團の渡河及イボ附近への進出	起案者の記憶
九〇	第八節 スリム及スリムリバー附近の戦闘	同右及摘録
九六	第九節 第五師團のスリムよりクアシラン ブリルに互る追撃	同 右
九八	第十節 近衛師團の状況	同 右
一〇〇	第十一節 佗美支隊方面の状況	同 右
一〇一	第十二節 鐵道部隊の状況	同 右
一〇四	第十三節 航空部隊の行動	起案者の記憶
一〇四	第十四節 軍司令部の行動	同 右
一〇五	第五章 クアラランブルよりジヨホル水道に至る迄	
一〇五	第一節 概 情	關係主務者の記憶及一部殘存資料
一〇七	第二節 軍の企圖	起案者の記憶及摘録
一〇	第三節 第五師團及軍主力の態勢整理	起案者の記憶
一一一	第四節 向田支隊の突進	同 右
一一二	第五節 第五師團のケマス附近の戦闘	同 右
一一三	第六節 近衛師團のムアル河に至る前進	同 右
一一四	第七節 近衛師團のバクリ、パクントスロ ン附近の戦闘	参加者の記憶及摘録
一一九	第八節 第五師團のジヨホル水道に至る追撃	起案者の記憶及摘録
一二一	第九節 近衛師團のジヨホル水道に至る追撃	同 右
一二三	第十節 佗美支隊の轉進	同 右
一二四	第十一節 木庭支隊の南進	同 右
一二五	第十二節 佐伯支隊	同 右
一二六	第十三節 第十八師團主力の行動	同 右
一二七	第十四節 第三飛行集團の協力	起案者の記憶

一二七	第十五節 軍司令部の行動	起案者の記憶
一二八	附 馬來半島作戰の回顧	一部殘存記録及起案者の記憶
一三三	第六章 新嘉坡の攻略	
一三三	第一節 敵軍の狀況	關係主務者の記憶及摘録
一三三	第二節 攻襲準備	殘存記録及起案者の記憶
一五一	第三節 新嘉坡島の攻略	起案者の記憶、摘録
一六二	第四節 敵軍の降伏	起案者の記憶、摘録及殘存記録
一六八	第五節 敵降伏後の軍の行動	起案者の記憶及摘録

東印度作戰記録（第十六軍）挿入事項表

頁	項	目	挿入事項
一	第一章 作戰計畫		於田大佐記憶
三	第一章第一節 開戦より一月末頃に至る迄の作戦		末尾の殘存要圖及於田大佐記憶
五	第二章第二節 二月始頃より爪哇本土上陸に至る迄の作戦		同 右
八	第三章第一節 作戦前の状況		「爪哇作戦の手記」（本手記は參謀部戰史課に提出しあり）
九	第三章第二節 作戦地の地形及氣象		「爪哇作戦の手記」
一一	第三章第三節第一款 第一次集合點出發迄の作戦準備		「爪哇作戦の手記」及 於田大佐記憶
二〇	第三章第三節第二款 集合點の推進並に同地に於ける作戦準備		同 右
二四	第三章第三節第三款 軍主力のカムラン灣出發及航海並に泊地進入		末尾の殘存要圖及於田大佐記憶

1631

附圖	二六	第三章第三節第四款 第四十八師團のホロ島出發及航海並に泊地進入	「爪哇作戰の手記」
	二七	第三章第三節第五款 バリ島政略作戰	同 右
	三〇	第三章第三節第六款 第三飛行集團の狀況	「爪哇作戰の手記」及 於田大佐記憶
	三一	第三章第四節第一款 全線作戰經過の梗概	同 右
	三五	第三章第四節第二款第一 第二師團	同 右
	四四	第三章第四節第二款第二 東海林支隊	山下中佐記憶
	五五	第三章第四節第二款第三 坂口支隊	「爪哇作戰の手記」
	五九	第三章第四節第二款第四 第四十八師團	同 右
	六四	第三章第四節第二款第五 軍戰團司令部の行動概要	於田大佐記憶
	六五	第四章 爪哇本土政略後の狀況	西浦中佐記憶
附圖			殘存要圖

南東太平洋方面作戦記録

其の一 (南海支隊の作戦) 出所

南東太平洋方面作戦記録其の一(南海支隊の作戦)の出所に關しては
一九四六年十月上旬呈出せし右記録表紙裏面所載の(註)に據るもの
にして本記録調製の基礎となりし主要なる資料左の如し

一 大本營作戦關係書類綴

二 南海支隊の陣中日誌及戦闘詳報

三 海軍省戦史部の保管しありし第四艦隊關係作戦資料